

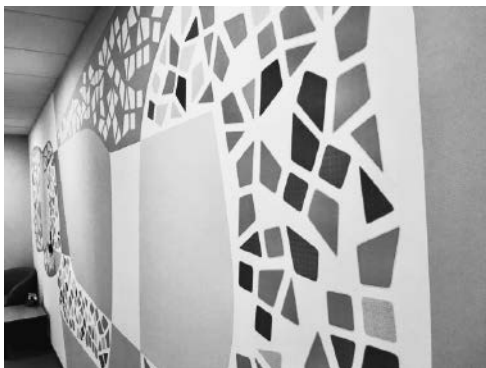


王立マンチェスター子ども病院におけるアート

亀井克之

協力 上田正人

訪問日 2019年8月28日



終末期の患者さんとその家族のための特別病室である。壁、窓に三角形や四角形のタイルを貼り合わせたようなデザインが施されている。子どもさんを亡くされたご家族のご協力の下、デザインされた。患者さんの病室の前には、ガラスで隔てられた前室が用意され、ご家族の心の準備ができるよう工夫されていた。



患者さんの病室の壁にも落ち着いた抽象的な模様が描かれている。ただ、ベッドの高さは、無地で統一されていた。ご家族が患者さんに向き合わせた際、その模様が目に入らないように配慮されていた。また、収納家具等は天然木のもものが置かれていた。



X線関連の検査室は、「宇宙」、「宇宙船」をテーマにしていた。



ここではレントゲン室をはじめ、診察室の壁には「宇宙」、「宇宙船」をイメージした絵が描かれていた。様々な装置もあることから、本当に宇宙船のようであった。子どもにとって、診察室はやはり居心地の良い場所ではない。このような工夫により、子ども達の嫌悪感を軽減している。また、子どもにとって、撮影時に「静止」することは簡単ではない。壁の絵などに集中させることで、その時間を稼ぐこともできるという。これは、X線への暴露時間の軽減にも繋がる。



一般病棟の廊下には、退院された患者さんらが作成された絵等が展示されていた。また、書道が展示されているセクションもあった。



王立マンチェスター病院でホスピタル。アートを展開する Lime の代表者と。





これは外来の待合室の一角である。天井からの採光により非常に明るい空間になっていた。壁や柱にも比較的大きなオブジェが展示されていた。



ここは、病院に隣接するプリンティング工房である。版画やアニメーション作成などを行う部屋がそれぞれ用意されていた。



アニメーションに関する病院の職員向け講習会に参加させてもらった。壁に貼られた模造紙に天然木炭で少しずつ線や面を加えていき、その過程をタイムラプス撮影することにより、一つのアニメーションを作成するものであった。初めの段階は、各々が好き勝手に描いていたが、時間が経つにつれ、自然と一つのストーリーをもつように、参加者が絵を足すようになった。アートを通して、参加者の連帯感のようなものが生まれる効果があると思われる。